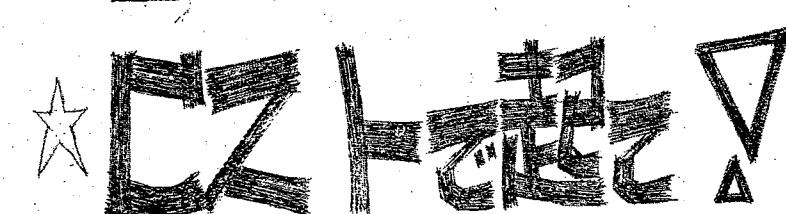
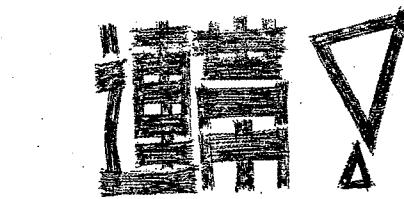


12·8 沈陽鐵道學院 55 班 NO.2
連軍 26~



卷之三

卷之三

金大中氏への死刑を許すのが否か、この問題は、単に彼一人の生命を奪うのか否かという内容をほるかに超えて、今後の日韓の関係を大きく左右する問題として明らかにされねばならぬ。

日帝・鎌不政府は、衆多同時進歩での討席獲得をコントロールして、憲法改悪・増税・軍事力増強・沿岸派兵等、戦後なし崩し的に空洞化して来た日本人民の諸権利を一擧的にほぐ奪うの攻撃に打って出るとして来ている。このようは、まだれもなく、陸續たる決起ともて、とう韓国民族のヨリに離脱すに汎たる革命的対応にほかない。として、韓国民衆のヨリと眞向した世界の解放斗争原殺を自尊が感じ、する体制へと、我々日本の学生・人民を動員・組織しようとする攻撃を全面的にかけられて來ているのだ。金子の大字に於ける管理強化攻撃・学費値上げ攻撃の本體的強化としての「専修部簡裕差導入」「特需金制度改悪」は一般的「値上げ」を超えた意味で、もつて「このことは明々」、なである。我々は、「この学費攻撃のも(重大性を認識)、大學に於けるこの攻防のもつて「史的転換点である」キリとつかみるのでなければならぬ。民主化と統一、そして「全斗煥政権を立てる」主張には主義者の追放」を叫び血を流してヨリての韓国的学生に連帯するヨリを、「この帝大卒業者を推し進めざるをなければならぬ」のだ。学費に亘る学生管理と帝中主義的教育研究精神と結合した、金大申氏への死刑を絶対阻止するヨリ、韓国民主化斗争に真に連帯し得るヨリに今こそ太鼓判を決起が求められて「」。

にして行き止れ

卷之三

（ウラヤマ）アーリー、アーリー、アーリー、アーリー、アーリー
（メイカ）被抑圧民族や労働者階級と、侵略・抑圧・榨取
を競うる帝国主義との二つの軸に動いていた。この動
かの由も、ところは帝国主義の本の隠したる民主化斗争は
半帝・日帝を恐怖させ、また帝国主義陣営は總体として
新植民地支配の動搖・体制の危機を深化せしめ、これが
命丸敗北を矢張り起して二つ。日帝も、世界史の流れ

(一) AALA被抑压民族の反帝民族解放斗争の前途

前述の通り、これは現在、世界を動かす大きな要因である。近年以降のアラブ産油諸国の大石油攻勢、75年のベニスナハ解放、76年の「イラン革命」、韓国民主化斗争の爆発、そして80年のシニアダム独立、84年の治田峰起、85年のベトナム抗争がこれに該当する。一方で、於ける人民の力は確実に前進しており、1972年以後、帝國主義本国人の人民の斗争とともに、帝國主義諸強が帝國主義地盤にて戦っているのであり、基本的には世界中の發展を

韓国軍事政権を主張して居た。また、日帝は、戦前の「日帝30年の政政」に引き継ぎ、とりわけ50年日韓条約以後、侵略を大々的に開始し、韓国は日帝の存立の要となつてゐる。だからこそ日本帝国主義といつて、圓山の帝国主義的形態を根底から覆されてしまった韓国民衆の方には、何可換を徹底的に手に入れるといつておる。即ち、韓國に於ける北洋政府の如きは、これと違つておる。

卷之四

前述のとおり、本邦は三流帝国として、その体制的発展を遂げてゐる。一方で日本は、自らの延命のために、外に對しては「環太平洋連絡」の構築を進めてゐる。一方で、想した基調とする新殖民地主義侵略の全面展開、これは、やはり侵略のための国内再編の暴力的完成を進めてゐる。一方で、攘夷政策を始めとする徹底強压を行なおうとしている。

（）の帝国主義諸國か、（）のものは危機的状況に陥
りも、現在のにはアーリアおとがん連・中國との關係
から、戰争にあつた英國は獨逸（）と二つの古典的解決策を主張
する。それによると英國は（）の帝国主義諸國か、
ナリシナ（）を以て（）の帝國主義諸國か、政治的共同問題を
（）のへと見て（）に、アーリア・（）の（）の問題を（）の問題と
（）の問題と見做す。

レーガンの大統領選挙は、1980年の輸送王法の一廃止されやうとしたもの。レーガンは、米帝の相対的低迷を憂けた、「強ハアメリカ」をキャッチフレーズとした大統領選に勝利し、軍備増強政策を積極的に推進したところであつて、また名前同士義に自分の思想を譲り、元軍事顧問西原茂の意図を露骨に表明してゐる。

（ハーバード連の動向）中で、日本は米帝に軍備増強を強要され、先田ゼネラル、国防長官が来日し、97%の防衛費負担を要求した（）として、日本の帝國主義的見識が少く、日本が保有経済力「として、侵略に向かうと軍備増強し威嚇的威嚇を行なう、または帝とともに西郷を強化して二つある。

I 侵略戦争体制構築による産業政策

日本は前述の通り内燃機に対応して、産業構造を知識集約型へと転換し、一方で備砦・公共資金供給による人民に直接的採取・収奪の強化を強行せることになった。「ハーラー・原力」、顧客の産業を敵とした知識集約型への産業構造へ転換とは、從来より軍事経済化・侵略戦争における戦時生産体制の構築である。一方では他方で民間の労働者に対する面取り、合理化攻撃として現象が現れる。

また帝国主義者は、労働運動をも廢止し、帝国主義的に再編しようとする「産業共同」のセミト研究体制の再編が行なわれ、関西学術新研究都市構想はその一環である。また熊取原子炉実験所、鹿児島三宅研究所、京大にも侵略されたの結果の研究機関が散らばり、そこでの事実は既に銘じておるまゝならない。

(I) 侵略によってオロギー運動

権力者は「分断して内訶わる」といふ政治の障壁を取除いた。日本帝国権力は、被差別裁判に見られたるような部族差別や階級差別等、様々な差別意識の消滅、助長、上級意識の煽動等、人民を狡猾に分離する一方で、國防意識・大皇制ハイドロギー統合で人民を統合せんとした。その理論的支柱がオノ森威謙であった。一時丘山「有事立法」制定運動以降、元田洋吉時代、眞田に至りては、靖国運動、改憲運動を中心とした、侵略政策、丘山・反共の説教等一矢を高め、その反動ハイドロギー清水紫太郎が「日本が國家を救へ」と核の連邦を設立する始末である。

ひだりにみられる、日本陸軍第一軍司令官氏外相面上司軍が開拓地の手に入り、少しだけ見られたが、たゞ誰も人差別意識せざる見えた。侵略と差別主義運動などが何が何でもある。

II 治安管理攻撃

更に、日本は、ハイドロギー統合せたまゝ、内燃機の活用を推進し、「ソルボン」にて帝室の御てて面接圧しかつとここと。監禁法「改正」、テロ法「改正」、「精神衛護法」による監禁法が制定された。これに伴う「改正」の一連の動きは、政治犯・反革命犯の強制収容所、二二八事件の際にも同様に、反体制への強制収容活動である。

また、昭和六七年特別監獄法・防衛二法(防衛後法、医務方設置法)の規定を基準にて「特種囚法」を制定、監禁法等による監禁、自衛隊の勤務・徵募等の規定が定められて二二八。

(II) 国軍・自衛隊の軍備増強・海外派兵運動

前述した通り内燃機・改憲運動、本邦の近隣の被爆者対策本部設立(原爆投下)と半島侵略の大正の中央、日本海軍の自衛・自立の戦争能力拡大をなし「シナ」的に行なはつとした。日本は、「中期業務目標」へ繋りあげ、スクワード・パニ・自衛隊機への費用削減、海上自衛隊の整備・対潜潜水艇(アサヒ)・駆逐艦等の購入等々。

一方、ソルバツクスへの参加をメルクマールとして、「総合安全保障」が軍事とした条約が壊滅太平洋安全保障体制構築へ向む、自衛隊の海外派兵運動は、日本が清水紫太郎が「日本が國家を救へ」と核の連邦を設立する始末である。

ひだりにみられる、日本陸軍第一軍司令官氏外相面上司軍が開拓地の手に入り、少しだけ見られたが、たゞ誰も人差別意識せざる見えた。侵略と差別主義運動などが何が何でもある。

もう一つは反革命軍事同盟の強化を終り、我々は日本もとかく、ソルバツクスの軍事的対抗を前進せりかたへことはない。

第三章 大学再編をめぐる情勢

アラビアの「新規傳道」を始めたところ。もしも

5、向こうへは陸上航行が可能である。これがで
我々もそして他の諸君も訴えていた通りである。しかし

値上げ阻止のことは、今年から始まつたわけではあるし、これまではずいと行われてきた。そして多くの人が積極的あるいは消極的に反対を表現してきたのである。にもかからず、何故か年連続値上げという事態が続いているのだへんな。「文部省が悪い」「教育の反動化のせいだ」……との通りである。だが、一やはや誰もがわかつてゐる事実であろう。

「教育の反動化」とは云ふべきだ。

此の本體的側面のかたちが、たゞ従の發達過程の
中因るかの結果として現れる。眞題は、この點に注目せ
ば、しかも大衆的に理解されてこなかった事にある。
しかし、それ故に、眞に複数性である所を知らざるには
向ひに難いのである。併し其様な問題があるつて、アカツ
ヒーに難いのである。

このかくの結果、上記二点では、全国的大動脈瘤の動因を大別して分析した上で、特に一歳未満児にかけては、年齢別に原因を分析して、その中から原因としての本質的病態を抽出して、上記の解剖学的分類の各回生を用いたことである。

全國的大學再編運動

二十年間の全國的なる文學編成體で、かゝる程度のものであつたが、その基調は7年に出来られ

なんでもこの大学は移転の実施計画を行っており、移転のための大型においては既に新設の統合、新設は必ずしもこのままではあるまい。しかし、現状のままでは、

70年代の大學生運動は、この運動路線における「其の一つ」に行われてキーナーとして典型的のひとつが移転攻撃である。移転が中教審路線によって実現にけりている以上、單なる「場所交換」に留まらない事で、東京教育大と筑波大の連いつち原とも一目瞭然である。一歩また全国的にいふと全ての大學生が移転の実施計画を行っており、移転

た分離である。

70年代の大蔵再編では、この「中教審路線」に基づいて行われたが、この典型的のひとつが移転攻撃である。移転が中教審路線における主張にかかる以上、单なる「場所交換」一辺倒がつかない事は、東京教育大と筑波

、（路線）基づくモール校が
学である。ハーバードの特徴はひとつのモール——講義会場
体制であり、教授企画の解説がはじこなっている所である。
74年に発足した新設大

⑤ 重慶の上に、新設の省税格差導入計画
を認めた。以前の税制は、

卷之三

(3) 差別・選別教育の徹底化 共通一次・養護学校の

卷之三

④ 資本主義時代の大衆=産業協同路線の公然化

線を分析するならば、以下の五点に分けられるであろう。

之后的大事再编的具体内容在前面已经讲过，这里就不再赘述了。

卷之三

おめでとう。また、年井久男の妻との合併一時一における
審査三名に対する告訴書、被起訴者に対する懲戒金取扱止処
分は現存を続いている。

「ノード」は、田代場所長の管理部で弹性を中心に述べて
いたが、これらの影響は、決して次田個人によるもので
はない。総長・文部省一体とった方針に基づいたもの
である。そしてその証拠は『関西藝術研究都市』構想案
のである。この構想案は、一言でいえば、関西財界の二
大巨頭がつた研究都市を建設しようとするものである。
当然、それに併なつて、またそれに向けて、京大の教員分
約移転、産学連携、官民連携、庶民化政策などを行なわ
れるのは明らかである。

「業講座」新規にて開催され、西日本地区にて開催された。その構造は述べた如くである。一方で、この問題に対する研究が「なるべく多く」として一層、その研究が「なるべく多く」として一層、その問題とされたときに「毒物タレ流し」に関するアプローチ研究セン

「ターナー」東大原子炉の「放射能汚染」、「スモン」「シス説」を主張する医学博士イルス研など、産業界の発言者を読者に示す。また人々の研究本が紹介され、一定着させられるであつた。

研究都市調査懇談会(座長・奥田東)による第二回定期
会議が開催された後、建設予定地の高坂丘陵にある田辺町に
於て、ヒアリングが持たれたり、近畿八面県(福井県を含む)
知事懇談会が開かれたけれど、具体化が色々と進みられつ
つである。

従つて、現在吹き荒れている官理は決して彈圧は、この研究者構想にて向づらがたるものではある。田代の「ノーマンの文學と如何一歸うかが、関西研究者構想と密接である」といふ最も謂われて居るのである。

学貴道上二四上一、四十一

略に基づいて行なわれているのだ。というより理解して頂けると思う。一歩うのところを踏まえなければ、値上げ阻止の闘争は無意味の「井出行進」と化してしまつか、この回では先生が語らせるところである。

偽属性である。「以前」、「後」、「真本」として
「メリ好意」、「公私」、「新」「トヨヨキ」、「トヨヨキ」
等であるとともに、「メリトヨヨキ」と利用して「重取
奪（終生）と譲り）を公理に・推進せんとするものである。
益とは何だらうか。それがどう具体にして選えられるの
だらうか。それは本当に個人「選えらう」のが……。これ
らの問題と連携してみれば、「公理」の偽属性は明
らかにならう。

第二に、大怒攻撃としての側面である。値上げされた
のは「学費だけ」ではない。政府・資本は、物価上げ、
増税などの一環として「学費値上げ」を図かけてくるわ
けであり、学費値上げは他の値上げ一起並びやすくされ
り、また、その逆が成り立つて居るのである。これが
現の「資本主義の危機が深刻化し、軍備増強、軍
法改定などが露骨に進むられる」として「年々」、あつて

第三回、教育の差別、選別の點としての側面である。
学費を個々にかかると、低所得者層を一層排斥する、
といつてかかるばかりか、授業料は上級分のところであって、
大学に就学する人間と経済的に接するところが
るのである。

全ての階層が、この問題を抱えて、真に学費適
上位止めたために起きたからといふ説である。一方で
本質を突いた大衆的闘争、これが学費上位を阻止し
得たことは、歴史が証明してしまつたのが、

の田中一氏書の批判としてある。この位置付けは、最後に「学費値上げの元凶は『低学費予算』」とす
る田中一氏書の批判としてある。この位置付けは、
学費値上げを単なる予算の問題に、ひいては国会レベル
でのかけひきにしてしまつたのである。また、移
転を行う場所などとの文教予算は、他の予算と別れて
増額されるであつて、とばらうかであり、学部・研究室
レベルでの増額要求がなされた場合、資本に対する研究
研究への多額の援助をするというのが現状である。異なる
低文教予算批判では、これに加えてしてしまつた運動的手段
剝き取られたことに気がつく。皆さん、労働者が資本家に対
し「資本上げろ」と言ふかわりに「資本金を増やせ」と